雄武町における公共建築物木造化の考え方

－町内の全建築事業者が施工可能な構造としての木構造－

雄武町役場　長谷川　潤，　宇野　安久

長谷川　潤

■雄武町の森林および林業・木材産業

雄武町の森林面積は，道有林が面積，蓄積ともに全体の約7割を占めています（**表1**）。また，このうち，約3万9千ha，全体の8割強はSGECの認証を受けた森林です。

表1　雄武町の森林

所管区分	面積(ha)	蓄積量(㎥)
道有林	33,347	4,576
町有林	2,764	402
私有林	11,255	1,427
計	47,366	6,405

町内には，雄武町森林組合を含め，8つの事業体が林業事業を営んでいます。これに対し，1972年には8工場が稼働していた製材事業体は，2002年以降，町内から姿を消しました。このため，町内の森林から伐採・生産されている原木は，近隣自治体の製材工場に運ばれて加工されています。

■公共建築物の木造化に取り組む理由

「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」が成立・施行されたのは2010年（平成22年）です。雄武町では同法が施行される前年の2009年に公営住宅および公園休憩施設を木造で建築して以降，毎年コンスタントに町内公共建築物の木造化を進めています（**表2**）。2021年以降も木造公営住宅の建設が予定されています。

表2　雄武町における木造公共建築物

No.	施設	建設年度	構造の特徴	延床面積(m²)	木材使用量(㎥)	主な内訳(単位：㎥)
1	公営住宅	2009	在来	214.92	46	カラマツ集成材：21.5
2	統合保育所(認定こども園)	2009	トラス梁 一部，大断面集成材	998.14	144.09	カラマツ集成材：43.74 トドマツ集成材：24.12 トドマツ製材　：73.89
3	宮の森公園休憩施設	2010	在来	225.18	50.77	カラマツ集成材：14.68 トドマツ製材　：36.09
4	健康ふれあいセンター	2011	大断面集成材	612.4	103.2	カラマツ集成材：68.6 トドマツ製材　：26.6
5	住民センター「つどーれ」	2012	大断面集成材	496.69	117.2	カラマツ集成材：50.7 トドマツ製材　：63.0
6	公営住宅（2棟・10戸）	2013		752.3	170.49	針葉樹構造材　：136.6
7	公営住宅（2棟・7戸）	2014		482.74	116.52	針葉樹構造材　：91.4
8	公営住宅（2棟・7戸）	2015		504.71	123.24	針葉樹構造材　：97.2
9	公営住宅（2棟・8戸）	2016		518.78	129.38	針葉樹構造材　：101.3
10	公営住宅（2棟・6戸）	2017		466.6	108.77	針葉樹構造材　：86.8
11	図書館「雄図ぴあ」	2019	トラス梁	1,316		カラマツ集成材・他*

*：詳細は，本誌「道産木材と地域の技術で建てる図書館」を参照

公共建築物木造化の方針は，田原元町長により示されました。

当町が公共建築物を木造で建設している最も大きな理由は，木造が町内の建築事業者が等しく施工できる構造であることによります。町内では複数の建築事業者が事業を営んでいます。木造であればすべての事業者が施工できるのに対し，木造以外の，例えばRC造などは施工できる事業者が限られています。また，町内の建築事業者が受注することで，直営の大工さんたちの雇用による地域活性化の効果が得られます。

使用する木材は，「町産材」ではなく「オホーツク総合振興局管内産木材」としています。「町産材」と指定しないのは，原木輸送や製材加工における管理が増え，コストが課題になるからです。ただし，移入・輸入集成材や製材は利用していません。先に述べたように雄武町産原木の多くは近隣自治体の木材加工場に輸送されるので，「管内産」に限定することで，使用する建築材の全てではないにしろ，結果的に町産材を多く使用していることになっているのだと考えています。

当町では，町民の方々が快適に生活するための住宅の整備を行うための費用の一部を補助する「雄武町快適住まいづくり促進条例」を制定しています。その中で，「オホーツク総合振興局管内産認証木材」を使用した新築工事については，認証木材1m^{3}当たり15,000円の補助を行っています。このように，本条例においても町産材ではなく，管内産木材の利用を想定しています。

■構法について

当町では，大断面集成材を用いて広い空間を持つ施設を2棟建設しました（**表2**，No.4，No.5）。どちらも大手建材会社が評定を受けている木構造で，技術的に確立されている信頼性の高いものです。しかしながら，評定を得ている企業が主な施工を担うことから，施工費が割高になるとともに，地元の大工さんたちの作業が失われてしまいました。また，道内には大断面集成材の製造・加工施設が限られていることから，他自治体や事業体の発注と重なると納期が予想外にかかることもわかりました。

この経験は，図書館（雄図ぴあ）の設計に生かされ，そこは一般に流通している中断面材を用いたトラス梁構造で建てられています。

トラス梁構造は認定こども園（**表2**，No2）の建設で一度経験済みで，このときの設計者は，雄図ぴあと同じ（株)石本建築設計事務所でした。この建物は，一般製材および中断面集成材のトラス梁構造とすることで地元の大工さんたちが施工しています。なお，トラス梁の梁天端高を変えることにより屋根面を曲面形状（**写真1**）とし，やわらかな外観を見せています。

本町では，これからも地元の事業者さん・大工さんが主体的に関わることができる構造で公共建築物の木造化を進めていく考えです。

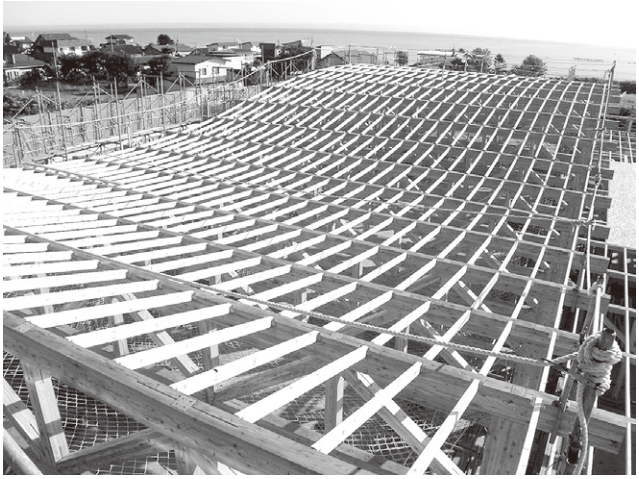

写真1　曲面形状の屋根

（本稿は雄武町役場建設水道課建築係の長谷川氏および宇野氏のご説明を取りまとめたものです。取材に対し，資料・写真のご提供をはじめ懇切丁寧にご協力いただいたことに深く感謝いたします。 編集部）